

企業経営と新製品開発

企業の知財戦略

研究員 坂巻 資敏

特許活動の要点

特許活動は、新しい特許の発明、他社特許の無効化と他社特許の改良発明の三つが重要である。知財部門では自社特許の権利取得活動に加えて、他社からの特許攻撃に対して、自社製品を守るための法務的な交渉活動や訴訟活動が重要である。

(1) 経営者の活動

特許活動で最も重要なことは経営者が特許の経営戦略上の価値と重要度を正しく認識し、社員の特許活動を督励する仕組みと特許活動の会社としての目標を明確にすることである。

経営戦略上競業企業に対してどのようなポジションを取りたいかを指示する。

(2) 管理職の活動

トップの方針を受けた管理職の役割は、部下の特許活動の環境提供と活動時間の保証をすることである。

特許の権利は、出願を早くした企業が得られるから、発明してから特許庁へ申請するまでの社内手続きを迅速に処理する仕掛けづくりも重要である。

(3) 研究者・開発技術者の活動

研究者・開発技術者は、自分の従事している技術の発明と、その特許出願に関心が集中しがちだが、事業戦略上は、相手の事業を自社の特許で攻撃し、活動を抑制あるいは阻止することも重要である。

相手を攻撃するためには相手の製品を購入し、自社の特許を使っていないかを分析する他社製品調査と、他社の特許を特許庁へ異議申し立てをして無効にする活動と、他社の基本特許の改良特許を他社に先んじて出願し、権利化する活動がある。

自社の事業を守り維持発展させる特許出願活動は、事業の格になる「基本特許」の取得と、これの「改良特許」並びに「周辺特許」の出願を他社に先駆けて行うことである。

(4) 知財部門の活動

経営戦略上重要な知財部門の活動は、自社と競業企業の知的財産権の業界における立ち位置を分析しこれをマップ化して、経営者や管理者に経営戦略情報として提供することである。

この特許情報分析により将来競合企業から知的財産権で訴訟を受ける可能性を分析して供える活動と、自社の保有する知的財産権から競合企業を攻撃し、相手の企業の活動を抑制できる戦術を提案すること。

またこうした知的財産権戦争を有利にするために事業部門や研究開発部門に対して特許活動の重点を教示することも重要である。

知財部門の重要な役割は、自社が事業を将来行うであろう地域の法務や知的財産権制度の先読みをしてこれに供える戦術を作り関係部門と共同で供えることである。

—以上—